

II 様式 C-26 の記載方法 「当初計画、変更後の計画及び繰越の主たる内容について」

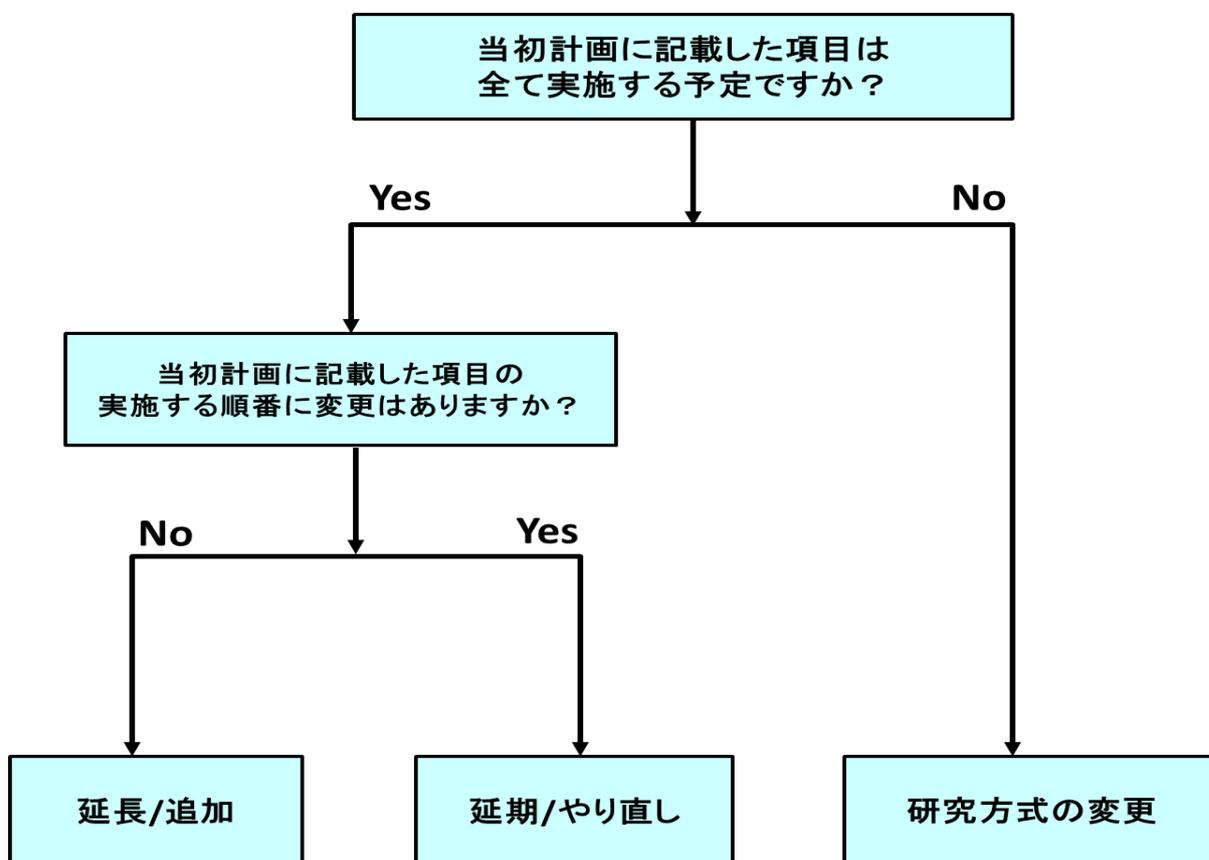
1. 「当初計画及び変更後の計画」欄の記載に伴う「繰越の主たる内容」の選択について

繰越とすることとなった事由を明確化するため、システム対応種目については、「当初計画」の入力後に「繰越の主たる内容」を選択し、その後「変更後の計画」を入力してください。

「繰越の主たる内容」は、以下の「延長／追加」「延期／やり直し」「研究方式の変更」の3つがあり、選択した内容によって「変更後の計画」を入力する際のシステム制御が変わるため、選択する前に必ず以下を確認してください。なお、複数の「繰越の主たる内容」に該当する場合は、最も影響の大きいものを選択し、「変更後の計画」にはそれに関連する項目を中心に記載してください。

※システム非対応種目については、「繰越の主たる内容」の記入は不要です。

※「繰越の主たる内容」については様式 C-26 には表示されませんが、CSV では表示されます。



<(参考)繰越の主たる内容選択のフロー図>

延長／追加等やむを得ない事由によって「当初計画」の一部を延長して実施する場合や、「当初計画」で予定していなかった新規項目を追加することで引き続き当初計画どおりに研究を遂行できる場合は、こちらを選択してください。

※延長、追加する場合であっても、その後の「当初計画」の順番が変更になる場合は、次の「延期／やり直し」（順番変更あり）を選択してください。

「変更後の計画」を入力する際、「当初計画」で記載した項目の順番を変更することはできません。また、「当初計画」に記載した項目は全て記載する必要があります。

【電子申請システムで「変更後の計画」を入力する際の制御は以下のとおり】

- ・「変更後の計画」に自動表示された「当初計画」の項目は、修正・変更できません。（グレーアウト表示になっています）
 - ・「当初計画」の項目を延長して実施する月、または「当初計画」で予定していなかった新規項目を追加で実施する月のみ、行を挿入してください。挿入した行の項目は自由記述です。
- ※行の挿入は繰越事由の発生した月以降のみ可能です。

延期／やり直し等やむを得ない事由によって「当初計画」の一部を延期して実施する場合や、一度実施した項目を再度やり直す場合であって、その後の「当初計画」も順番を変更して実施する必要がある場合にはこちらを選択してください。

※延期／やり直しをする場合であっても、その後の「当初計画」を予定通り実施できる場合には、前の「延長／追加」（順番変更なし）を選択してください。

「変更後の計画」を入力する際、「当初計画」で記載した項目の順番を変更することができますが、「当初計画」に記載した項目は全て記載する必要があります。

【電子申請システムで「変更後の計画」を入力する際の制御は以下のとおり】

- ・「変更後の計画」に自動表示された「当初計画」の各項目の順番を変更したい場合、一度当該項目を削除してから、再度別の時期に項目を入力してください。なお、最終的には「当初計画」に記載した項目は全て「変更後の計画」に入力する必要があります。（一時保存は可能ですが、次の画面に進むことができません）
 - ・挿入した行の項目は自由記述です。
- ※行の挿入は繰越事由の発生した月以降のみ可能です。

研究方式の変更等：やむを得ない事由によって「当初計画」を変更し、別の方法で研究を実施する場合はこちらを選択してください。

「変更後の計画」を入力する際、繰越事由が発生した月以降は、**自由記述**であり、「当初計画」に記載した項目を全て網羅する必要はありません。

【電子申請システムで「変更後の計画」を入力する際の制御は以下のとおり】

- ・「変更後の計画」に自動表示された「当初計画」の内容を、修正・変更可能です。
- ・挿入した行の項目は自由記述です。

※行の挿入は繰越事由の発生した月以降のみ可能です。

2.具体的な記載例

延長/追加

(延長)

繰越事由の発生した時期		令和3年9月	
R3.4	事前準備	R3.4	事前準備
R3.5	↓	R3.5	↓
R3.6	↓	R3.6	↓
R3.7	〇〇の検討	R3.7	〇〇の検討
R3.8	↓	R3.8	↓
R3.9	▲▲調査	R3.9	▲▲調査
R3.10	↓	R3.10	↓
R3.11	□□実験	R3.11	↓
R3.12	↓	R3.12	↓
R4.1	↓	R4.1	□□実験
R4.2	↓	R4.2	↓
R4.3	成果の取りまとめ	R4.3	↓
		R4.4	↓
		R4.5	成果の取りまとめ

▲▲調査の期間を当初より、2か月延長している。

(追加)

繰越事由の発生した時期		令和3年9月	
R3.4	事前準備	R3.4	事前準備
R3.5	↓	R3.5	↓
R3.6	↓	R3.6	↓
R3.7	〇〇の検討	R3.7	〇〇の検討
R3.8	↓	R3.8	↓
R3.9	▲▲調査	R3.9	▲▲調査
R3.10	↓	R3.10	↓
R3.11	□□実験	R3.11	××調査
R3.12	↓	R3.12	↓
R4.1	↓	R4.1	□□実験
R4.2	↓	R4.2	↓
R4.3	成果の取りまとめ	R4.3	↓
		R4.4	↓
		R4.5	成果の取りまとめ

××調査を追加で実施している。

延期/やり直し

(延期)

繰越事由の発生した時期		令和3年9月	
R3.4	事前準備	R3.4	事前準備
R3.5	↓	R3.5	↓
R3.6	↓	R3.6	↓
R3.7	〇〇の検討	R3.7	〇〇の検討
R3.8	↓	R3.8	↓
R3.9	▲▲調査	R3.9	日程調整
R3.10	↓	R3.10	↓
R3.11	□□実験	R3.11	□□実験
R3.12	↓	R3.12	↓
R4.1	↓	R4.1	↓
R4.2	↓	R4.2	↓
R4.3	成果の取りまとめ	R4.3	▲▲調査
		R4.4	↓
		R4.5	成果の取りまとめ

▲▲調査の延期により、□□実験と順番が入れ替わっている。

(やり直し)

繰越事由の発生した時期		令和3年9月	
R3.4	事前準備	R3.4	事前準備
R3.5	↓	R3.5	↓
R3.6	↓	R3.6	↓
R3.7	〇〇の検討	R3.7	〇〇の検討
R3.8	↓	R3.8	↓
R3.9	▲▲調査	R3.9	▲▲調査
R3.10	↓	R3.10	↓
R3.11	□□実験	R3.11	□□実験
R3.12	↓	R3.12	↓
R4.1	↓	R4.1	↓
R4.2	↓	R4.2	↓
R4.3	成果の取りまとめ	R4.3	〇〇の検討
		R4.4	↓
		R4.5	▲▲調査
		R4.6	↓
		R4.7	成果の取りまとめ

〇〇の検討及び▲▲調査をやり直して、再度実施している。

研究方式の変更

繰越事由の発生した時期		令和3年9月	
R3.4	事前準備	R3.4	事前準備
R3.5	↓	R3.5	↓
R3.6	↓	R3.6	↓
R3.7	〇〇の検討	R3.7	〇〇の検討
R3.8	↓	R3.8	↓
R3.9	▲▲調査	R3.9	代替手段の検討
R3.10	↓	R3.10	↓
R3.11	□□実験	R3.11	↓
R3.12	↓	R3.12	××実験
R4.1	↓	R4.1	↓
R4.2	↓	R4.2	↓
R4.3	成果の取りまとめ	R4.3	↓
		R4.4	↓
		R4.5	成果の取りまとめ

当初計画で予定していた▲▲調査及び□□実験をとりやめ、代わりに××実験を行っている。

3.FAQ

問10 「当初計画及び変更後の計画」欄について、計画をすべて記載しようとする欄が足りないが、どのように記載すればよいのか？

(答) 1行あたり「当初計画」欄は20文字、「変更後の計画」欄は30文字までという制限もありますので、研究計画の大まかな状況がわかり、かつ、繰越事由の発生した状況や、繰越事由の発生に伴う計画の変更等、繰越しに関連する部分が理解できるようにご記載ください。

ただし、計画の具体的な内容がわかるように記載してください(単に「実験」、「開発」等と記載するのではなく、「〇〇実験」、「□□□の開発」など計画のイメージが持てるように記載してください)。

【例：□□□□実験のための〇〇装置開発で、求めていた△△の出力が想定外にも得られず、繰り越す場合】

<< 記載例 >>	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;"><当初計画></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R3.4</td><td>事前準備</td></tr> <tr><td>R3.5</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R3.6</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R3.7</td><td>予備実験(条件設定)</td></tr> <tr><td>R3.8</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R3.9</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R3.10</td><td>△△法確立のための本実験</td></tr> <tr><td>R3.11</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R3.12</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R4.1</td><td>実験結果の解析</td></tr> <tr><td>R4.2</td><td>↓</td></tr> <tr><td>R4.3</td><td>研究成果とりまとめ</td></tr> </tbody> </table>	<当初計画>		R3.4	事前準備	R3.5	↓	R3.6	↓	R3.7	予備実験(条件設定)	R3.8	↓	R3.9	↓	R3.10	△△法確立のための本実験	R3.11	↓	R3.12	↓	R4.1	実験結果の解析	R4.2	↓	R4.3	研究成果とりまとめ
<当初計画>																											
R3.4	事前準備																										
R3.5	↓																										
R3.6	↓																										
R3.7	予備実験(条件設定)																										
R3.8	↓																										
R3.9	↓																										
R3.10	△△法確立のための本実験																										
R3.11	↓																										
R3.12	↓																										
R4.1	実験結果の解析																										
R4.2	↓																										
R4.3	研究成果とりまとめ																										

《避けていただきたい例》

研究計画の大きな流れが把握しづらい例（※）

※例えば機器の納入が遅れて繰り越す場合は、計画のうち機器の納入関係部分は記載いただいた方がよい場合もあります。研究内容や繰越しの状況によって変わりますので、例はあくまで一つの目安としてお考えください。

具体的な計画が分からない例

＜当初計画＞

- R3.4 事前準備
- R3.5 研究分担者と打合せ
- R3.6 国際学会出席
- R3.7 予備実験の条件設定
- R3.8 予備実験開始
- R3.9 予備実験終了
- R3.10 本実験に使用する実験機器納入
- R3.11 △△法確立のための本実験計画策定
- R3.12 △△法確立のための本実験
- R4.1 実験結果の解析、論文執筆
- R4.2 実験結果の解析、論文執筆、学会
- R4.3 研究成果とりまとめ、論文投稿

＜当初計画＞

- R3.4 事前準備
- R3.5 ↓
- R3.6 ↓
- R3.7 予備実験
- R3.8 ↓
- R3.9 ↓
- R3.10 本実験
- R3.11 ↓
- R3.12 ↓
- R4.1 解析
- R4.2 ↓
- R4.3 とりまとめ

問11 「＜当初計画＞」欄については、交付申請時点の計画を記載すればよいのか？

（答）基本的には、交付申請書において確認できる、交付申請時点の研究計画を記載してください。ただし、調整金の申請等により研究実施計画を変更している場合は、繰越事由の発生する直前の計画（まだ年度内の完了を見込んでいた時点の計画）を記載してください。

III 様式 C-26 の記載方法 (補足説明) について

1. 補足説明に網羅すべき事柄及びチェックポイントについて

以下を参考に補足説明の文章をご作成ください。

No.	記載項目	補足説明 チェックポイント	例
①	交付決定時には予想し得なかったやむを得ない事由	不測の事態が生じたことが判明した理由、または不測の事態が生じたと判断した経緯が分かるか	<p>例 1 : <u>当初の想定に反し</u>、○○に該当する文献が国内に非常に少ないことが判明した。</p> <p>例 2 : ○○実験に使用していた装置に<u>不測の故障</u>が生じたため、○月からの実験を実施出来なくなった。</p> <p>例 3 : 当初○月に開催予定だったシンポジウムが、主催者である<u>学会の都合により</u>、中止となることが判明した。</p> <p>例 4 : <u>当初の想定に反し</u>、実験室の地盤の強度が○○実験を行うには<u>不十分であることが判明した</u>。</p> <p>例 5 : 雇用を予定していた研究協力者が現職プロジェクトの<u>都合により</u>、令和○年○月に着任することが<u>出来なくなった</u>。</p>
②	繰り越す理由	繰越事由によって中止・遅延となった研究計画を行うことが不可欠であることが分かるか	<p>例 1 : 研究遂行上、十分な文献を用いた○○調査を行うことが<u>必要不可欠なため</u></p> <p>例 2 : 研究遂行上、この現象の本質を見極めることが<u>不可欠なため</u></p> <p>例 3 : 研究遂行上、フィールド調査で現地村落の協力を得るために現地コーディネーターである当該協力者の参画が<u>必要不可欠なため</u></p> <p>例 4 : 研究遂行上、最新の分析情報を収集した上で研究成果を取りまとめることが<u>不可欠なため</u></p> <p>例 5 : 研究遂行上、同様の知識を持つ新たな人材を確保することが<u>不可欠なため</u></p>
③	計画の変更理由	計画の変更理由が書いてあるか	<p>例 1 : 国外から文献を取り寄せた上で○○調査を<u>延長して実施する必要性が生じた</u>。</p> <p>例 2 : 研究協力者が参画可能となる 1 1 月に現地調査を<u>延期して実施する必要性が生じた</u>。</p> <p>例 3 : ○○実験を<u>追加して実施する必要性が生じた</u>。</p> <p>例 4 : 予備実験から<u>やり直しして実施する必要性が生じた</u>。</p> <p>例 5 : 計画を見直し、◇◇ではなく、▲▲を実施する<u>必要性が生じた</u>。</p>

2.事由別該当事例

※選択した「繰越事由」により、以下の事例テンプレートが表示されます。また、選択した「繰越の主たる内容」により、文末が変更になります。

※前項「1.補足説明に網羅すべき事柄及びチェックポイントについて」で付した No.と下記の下線部の文章が対応しています。

繰越事由	交付決定時には予想し得なかったやむを得ない事由	繰り越す理由	計画の変更理由 ※繰越の主たる内容に基づき表示
③ ア～エ 気象の関係	<u>例年にない想定外の▲▲（天災）により、予定していた××をすることが（できなかった or できないことが判明した）^①。</u>	<u>研究遂行上、◇◇が不可欠なため^②</u>	<p>（延長/追加の場合） <u>◇◇を（延長 or 追加）して実施する必要性が生じた^③。</u></p> <p>（延期/やり直しの場合） <u>◇◇を（延期 or やり直し）して実施する必要性が生じた^③。</u></p> <p>（研究方式の変更の場合） <u>計画を見直し、◇◇ではなく、▲▲を実施する必要性が生じた^③。</u></p>
①キ 計画に関する諸条件（怪我・病気）	<u>（研究代表者 or 研究分担者）の不測の（怪我 or 病気）により、◇◇が困難となったため、▲▲をすることが（できなかった or できないことが判明した）^①。</u>	<u>（〇〇年◆◆月には回復する見込みであるため or いつ回復するか見込みが立たないため）^②</u>	
①キ 計画に関する諸条件（研究協力者（機関）の事情） ①キ 計画に関する諸条件（機器の故障） ⑧ 相手国の事情	<u>××（協力者の事情・機器の故障・相手国の事情等）により、××をすることが（できなかった or できないことが判明した）^①。</u>	<u>研究遂行上、■■が不可欠なため^②</u>	
上記以外	<u>当初の想定に反し、〇〇により、□□が判明した^①。</u>		
	<u>××（本研究とは直接の関係のない第三者）から、〇〇における（新しい）□□が▲▲（発表・公開・指摘等）されたことにより、□□が判明した^①。</u>		

IV 様式 C-26 の記載方法 その他

FAQ

問12 様式 C-26 では、各欄の記載の整合性もチェックされるとのことだが、どのような点に注意すべきか？

(答) 全ての欄の整合性を確認しますので、特に以下のような点にご留意ください。なお、以下の項目について「C-26 記載事項チェックリスト」を「別紙1 繰越申請に当たっての留意事項」末尾に添付しておりますので、研究機関事務担当者にて様式 C-26 記載事項の確認を行ってください。

(1) 全般的な整合性

全ての欄で、同じ対象には同じ用語を使用してください。

(例：「ノックアウトマウス」「欠損マウス」「KOマウス」 → いずれかに統一)

(2) (補足説明) の (計画の変更理由) 欄と「当初の計画及び変更後の計画」欄の整合性

「<当初計画>」欄と「<変更後の計画>」欄で差が出る計画については、必ず「(補足説明) の (計画の変更理由)」欄でその必要性を説明してください。

(3) 「当初の計画及び変更後の計画」欄 と「繰越事由の発生した時期」及び「補助事業の完了時期」の整合性

(a) 「繰越事由の発生した時期」欄に記載した年月以前については、「<当初計画>」欄の計画と「<変更後の計画>」欄の計画は一致させてください。

繰越事由の発生した時期	
令和3年9月	
当初計画及び変更後の計画	
<当初計画>	<変更後の計画>
R3.4 事前準備	R3.4 事前準備
R3.5 プログラム内容の検討	R3.5 プログラム内容の検討
R3.6 ↓	R3.6 ↓
R3.7 △△形成実験	R3.7 △△形成実験
R3.8 ↓	R3.8 ↓
R3.9 ◇◇形成実験	R3.9 ●●●実験
R3.10 ↓	R3.10 ↓
R3.11 ↓	R3.11 ↓
R3.12 実験結果の解析	R3.12 ◇◇形成実験
R4.1 ↓	R4.1 ↓
R4.2 ↓	R4.2 ↓
R4.3 研究成果とりまとめ	R4.3 実験結果の解析

繰越事由の発生した時期が
令和3年9月の場合

令和3年度8月までの研究計画は「当初計画」「変更計画」で同一のものとなる

(b) 「補助事業の完了時期」欄に記載した年月と、「<変更後の計画>」欄で最後の計画の年月は一致する必要があります。

＜変更後の計画＞	
R3.4	事前準備
R3.5	↓
R3.6	↓
R3.7	予備実験(条件設定)
R3.8	↓
R3.9	条件検討
R3.10	↓
R3.11	予備実験(条件設定)
R3.12	↓
R4.1	↓
R4.2	△△法確立のための本実験
R4.3	↓
R4.4	↓
R4.5	実験結果の解析
R4.6	↓
R4.7	研究成果とりまとめ
補助事業の完了時期	
令和4年7月末(4ヶ月延長)	

問13 専門用語は使用しない方がよいのか？

(答) 専門分野の知識が無くても状況を理解できるように記載してください。ただし、専門用語を使用したほうが具体的にその状況を説明できる場合は、必要に応じて専門用語を使って具体的に記載してください。

<p>≪ 記載例 ≫</p>	<p>□□□観察の過程で、当初の予測に反し、○○から細胞ゴーストを作製する際の△△△△が、観察の障害となることが判明した。この問題を解決するため、～</p> <p>→「細胞ゴースト」「△△△△」などについて専門知識がないと不明な用語であっても、研究計画の遂行上生じた問題がどのようなものかわかる</p>
<p>≪ 避けていただきたい例 ≫</p>	<p>□□□観察の過程で、当初の予測に反し、観察が計画通りに進まなかった。このため、～</p> <p>→専門用語の使用を避けた結果、「観察が計画通りに進まなかった」理由が具体的にわからない</p>

また、よく用いられる表現でも、一般的な日本語として意味が曖昧となるような表現は避けてください。

<p>≪ 記載例 ≫</p>	<p>「～の可能性を発見した」</p> <p>「学会において～の可能性を海外の同分野の有識者から示唆された」</p>
<p>≪ 避けていただきたい例 ≫</p>	<p>「～の可能性が示唆された」</p> <p>(前後の文脈を見ても、補助事業者が発見したのか、他者から示唆されたのか不明なケースがよくみられます)</p>

問14 様式 C-26 を英語で作成することはできるか？

(答) 文部科学省及び財務省での確認を要する書類のため、様式 C-26 は日本語で作成してください。

問15 繰越（翌債）承認要求額は申請後に変更できるか？

(答) 第3回までの全ての申請課題について第3回の申請期限以降に、研究機関へ申請金額についてメールで最終確認を行いますので、金額修正がある場合には、別途送付する様式にてご回答ください。

問16 繰越（翌債）承認要求額が年度末まで固まらない状況の場合、どのように申請すればよいか？

(答) 繰越（翌債）承認要求額が確定する年度末まで繰越申請を遅らせることができませんので、年度完了時に確実に未使用額として残ることが想定され、また、翌年度に延長した場合に事業を完了させるために必要な金額を事前に確認し、繰越（翌債）承認要求額としてください。

問17 様式 C-26 を提出後に、内容に関して問合せが来たり、追加資料等を求められたりすることもあるようだが、なぜか？

(答) 繰越しについては、国の会計年度独立の原則の例外として認められているものであり、財務省において厳正な審査が行われます。様式 C-26 の内容に不整合があったり曖昧な点があるような場合は、短期間で修正を求められたり、承認を受けられない可能性もありますので、事前にそういった点を日本学術振興会から研究機関に確認しているものです。

また、同様の理由で、様式 C-26 だけでは、繰越要件に合致するかどうかや、繰越承認申請額の妥当性を判断できないような場合については、追加資料の提出等をお願いすることがあります。